

平成 25 年度第 2 回陸上掘削部会執行部会議事録

日時:2013 年 9 月 22 日(日)13:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室

出席者:

執行部:井龍康文(部会長補佐/名古屋大学) 廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)

浅沼 宏(産業技術総合研究所) 小村健太郎(防災科学技術研究所)

小泉尚嗣(産業技術総合研究所) 須藤 斎(名古屋大学) 長沼 毅(広島大学)

藤原 治(産業技術総合研究所) MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

オブザーバー:木村 穰(文部科学省) 東 垣(JAMSTEC/CDEX) 菅沼悠介(国立極地研究所)

事務局:倉本真一(EC 委員/JAMSTEC/CDEX) 梅津慶太(JAMSTEC/CDEX)

欠席者:

公文富士夫(信州大学) 中田節也(東京大学地震研究所)

議事次第

1. 前回(130620)議事録確認.....資料 1
2. ICDP Science Conference に向けた国内 WS 開催報告及び本番に向けて
3. EC 会議報告.....資料 2
4. SAG 委員の推薦について
5. ANDRILL に関する状況の確認
6. J-DESC 将来検討委員会について.....資料 3

配布資料

資料 1 前回会議(110329)議事録(案)

資料 2 EC 会議報告

資料 3 J-DESC 将来検討委員会について

議事録

1. 前回(130620)議事録確認.....資料 1 修正があれば火曜か水曜日くらいまでに事務局に連絡する。

2. ICDP Science Conference に向けた国内 WS 開催報告及び本番に向けて

- Conference の White paper の概要は既に検討されている。
- 日本からは津波堆積物、地熱掘削に関する提案をすることが部会長より ICDP-GFZ の Brian Horsfield 氏に伝えてあり、ぜひそうしてほしいとの返答ももらっている(ただし、コンパクトにまとまっている必要がある:最大 400 語)。
- 部会として、国内から誰がどんな Abstract (WP とは別) を出したかを把握するため、提出した際には執行部の ML で情報共有する (Abstract の〆切は現地時間の 9/22)。
- 高井氏の代わりに日本から微生物研究者を送りたい旨を ICDP 側に井龍部会長より連絡する。
- White paper は少なくとも津波堆積物と地熱に関して、10 月の半ばまでに送る (井龍部会長より ICDP 側に連絡する)。過度な負担をなくすため、J-DESC として翻訳費を負担する (もしくは英文校閲)。
- Conference として出版予定の特集号 (International Journal of Earth Sciences) にも積極的に投稿することを勧める。投稿する際には内容等の情報共有を行う。
- 月刊地球の特集号を出版する。12 月末を〆切として原稿集めを開始する。廣野部会長補佐が連絡を行う。

3. EC 会議報告.....資料 2

- 7 月 1~3 日に仙台で開催された。引き続き AOG 会議が開催された。
- Category A の分担金を 1M\$ に引き上げることが検討された。
- 5 件の掘削プロポーザルの評価を行った。
- 8 件のワークショッププロポーザルの評価を行った。
- ICDP を GFZ の一つの Project として認識することとなった。これによって ICDP で何か変わることはない。
- AOG において、SAG メンバーの選出方法が変更されたため、日本からも複数の候補者を推薦する必要がある。

4. SAG 委員の推薦について

- 日本から複数名の候補者をあげた。
- 後日、候補者には推薦する旨を通知する。

5. ANDRILL に関する状況の確認

- 菅沼氏を執行部とすることについてメールで伺っていたが、反対意見はなかったので、委嘱手続きを進める。
- 1 月 15 日に NSF にプロポーザルを出し、採択されればプロジェクトが進行する。

6. J-DESC 将来検討委員会について.....資料 3

- 10 年前に J-DESC が立ち上げられた状況とはかなり変わってきており、次の世代の研究者を中心に、今後の J-DESC の役割を検討することとなった。
- 第 1 回会議を 10/2 に開催する

7. その他

- 廣野部会長補佐および Mori 委員よりアルパイン断層掘削計画について状況報告があった。

次回の執行部会

- 時期は ICDP Science Conference の後、AGU の前をめどにメールにて調整する。

- コミュニティーを広げる方策を検討することを一つの議題とする。